

第6回 下野市総合計画審議会会議録

日 時	平成19年8月31日(金) 午前10時から12時まで
場 所	下野市役所国分寺庁舎304会議室
出席委員	中村祐司会長、須藤勇委員、伊澤剛委員、野田善一委員、伊澤敬一郎委員、高田憲一委員、早川進委員、中島一成委員、長光博委員、柴山征吉委員、大島昌弘委員、倉井徳勇委員、小川榮一委員、加藤芳江委員、高山トミイ委員、大貫理委員、高山和典委員、石田文治委員、金子康法委員
欠席委員	吉崎賢介委員、岡田雅代委員、近藤由紀子委員
出席者	篠崎第一分野担当副市長、小口第二分野担当副市長、古口教育長、野口総務企画部長、諏訪市民生活部長、毛塚健康福祉部長、齋藤経済建設部長、川俣上下水道部長、落合会計管理者、石田教育次長
事務局	(企画財政課) 篠崎課長、小口主幹兼課長補佐、長主幹、栃本副主幹、濱野副主幹、古口主査、川俣主査、坂本主事
傍聴人	2名

次第

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 議事
- 4 閉会

会長挨拶

前回から4ヶ月経った。前回以降の経緯については、後で事務局から説明をしていただく。4ヶ月前の前回審議会のことは鮮明に覚えているが、全国的に見てもトップレベルの内容で、基本構想についてのご意見をいただいたと思う。今回は、基本計画素案が提示される。この素案も、全国に先駆けた内容が含まれていると思う。皆さんの率直な意見を伺いたい。本日もよろしく願います。

委員の変更に伴う委嘱状の交付及び紹介

(事務局) 市の女性団体連絡協議会から参加いただいていた関京子委員から、一身上の都合により辞任したいとの申し入れがあった。新たに女性団体連絡協議会から加藤芳江さんの推薦をいただいたので、篠崎副市長より、委

嘱状の交付をする。

<委嘱状交付>

- (加藤委員) 委嘱状をいただき、身に余る光栄である。ボランティア連絡協議会や、公民館の講座指導など、市の活動に取り組んでいる。よろしく願います。

議事

会議録署名委員の指名

- (中村会長) 会議録署名について、大島昌弘委員と倉井徳勇委員に願います。

1) 前回会議録の確認

- (中村会長) 前回の第5回審議会議事録が示されたが、確認していただき、各委員から修正があれば願います。
- (石田委員) 8ページ21行目で、「手詰まりになった場合、地域経済が真空化したとしても」を「手詰まりになった場合でも」と修正していただきたい。また、10ページ23行目で、「行政にまかせるというのではなく、市民が10年後ぐらいに立ち上がっているならよいが」を、「行政にまかされるというのではなく、市民が10年後ぐらいに十分にチェックできるならよいが」と訂正、さらに24行目、「議員の知恵をお借りするような過程は強めてほしい」を「議員の知恵をお借りするような過程を盛り込んでほしい」に、25行目「市に直接言えなくても」を「市が直接言いにくいときでも」として欲しい。最後に、33行目「市民がもう少ししっかりしないといけないと思う」を「私も市民としてももう少ししっかりしないといけないとも思う」と修正していただきたい。

2) 下野市総合計画基本計画(素案)について

- (中村会長) いよいよ総合計画基本計画の素案が上がってきた。事務局から説明を願います。できれば簡潔に説明していただき、審議に時間をかけたい。よろしく願います。
- (事務局) 基本計画の内容の説明については簡単にする。市町村の総合計画については、これまで総花的で分かりにくいものが多かったが、市民意識調査にあった満足度を設定し、また、事務事業評価を活用して、計画の中で実施する事業に優先度をつけたことによって、独創的で画期的な内容となった。まず、これまでの検討の経緯について説明させていただきたい。

総合計画基本計画（素案）策定までの主な経過について説明

- ・資料「総合計画基本計画（素案）策定までの主な経過」をご覧ください。4月27日に開催された第5回審議会では、基本構想の第2次素案が審議される予定であったので、24日から、基本計画について庁内での検討を開始した。第5回総合計画策定委員会においては、行政評価との関連で、基本構想における行政運営の方針に掲げているところについて協議した。また成果指標については、広く成果指標を羅列し、計画期間内の目標値を設定することが一般的になっているが、指標の信憑性、確実性等を勘案して、指標導入の考え方を検討した。
- ・5月14日開催の第6回策定委員会では、成果指標の根拠が乏しいため、また、市民意識調査を活用するため、満足度指標を導入することとした。
- ・第7回策定委員会では、基本目標ごとに分野別指標を設定することとした。
- ・基本計画の文案を各専門部会で作成するため、専門部会の説明会を開催した。
- ・その後、「事務事業評価シート」を各専門部会に配布した。事務事業評価シートでは、事業の性質及び事業を取巻く環境を設定している。それらを各専門部会に記入していただき、それに対して企画財政課で判定し、齟齬がある場合には策定委員会で検討、最終的には市長判定で確定した。事務事業評価シートによる評価と専門部会による基本計画の文案を基に、策定委員会で4回にわたる検討・調整を行い素案をまとめた。

下野市総合計画基本計画（素案）について説明（資料1）

- ・次に、基本計画素案の内容について説明する。1ページ「1 基本計画とは」というところで、基本計画は、平成20年から23年までの4年間に実施していく事業を掲載するものとして位置づけている旨を記載し、項目の構成を明示している。
- ・1ページ下段「2 下野市の基本計画の特徴」では、満足度設定について、施策・事業の優先度の設定について記載している。
- ・「3 満足度の考え方」では、満足度を5段階に分けている。
- ・「4 施策・事業の優先度設定」の「総合計画事業の優先度設定の考え方」では、3ページの図に示してあるように、「事業の性質」と「事業を取巻く状況」の2つの視点で分類している。横軸、「事業の性質」による分類は5つに分かれている。縦軸の「事業を取り巻く環境」については、事業の緊急性や事業を行う環境が整っているか、熟度に基づいてAからFに分類している。E、Fについては基本計画には掲載していないが、実施計画を策定するうえで毎年度評価していくので、E、Fの事業がCやDにランクされたり、あるいはCやDの事業がEやFにランクされたりすることもある。
- ・4ページ以降を説明する。「A：心豊かに暮らせる、創造と躍進のまち」と「B：心安らかに暮らせる、安全・安心なまち」の2分野のうち、Aが1から3、Bが4から6に分かれている。1から6のそれぞれの項目では、まず分野別指標が冒頭に掲げられ、次にそれぞれの施策の現状と課題、基本方針、満足度、施策・事業内容を掲載している。

- (中村会長) 事前に委員のみなさんには配布されているので、事前にご覧いただいたという前提でお話したいと思う。前回審議いただいた基本構想の最後のページに、総合計画基本計画の優先度設定のイメージがあったと思う。今回の資料の3ページには、これに沿った形で具体的に案が提示されている。前回の審議会以降、策定委員会や専門部会で活発な検討をされてきた成果だと思われる。私の印象では、現状と課題・基本方針・満足度は、基本構想を忠実に反映し、作成いただいていると思われる。したがって、今日の議論の中心となるのは施策・事業の優先度設定ということになるのではないかと思う。
- (金子委員) 後ろに掲載されている事業の優先度は、3ページの優先度に沿って4月以降の会議の過程で決定したのか、それとも以前からたたき台があったのか。
- (篠崎副市長) この優先度については、4月以降で一定の方針を協議・検討した。各事業については、文言も含めて、庁内の会議を通じて作成した。
- (石田委員) 分野別指標は、各分野で代表性があり、目標として説明しうるものとのことだったが、他にもいくつか指標があった中で一番重要と考えた指標を設定されたのか、それとも把握しやすい指標を設定されたのか。
- (事務局) 指標設定の考え方については、数多く選んでも、あれもこれもなってしまうため、なるべく1つに限ることとして専門部会で設定している。
- (石田委員) そうであれば、分野別指標には、一番重要と考えられるものを設定しているということか。
- (中村会長) 指標については、全国的に市町村で指標ばやりの時代があったが、近年は、指標による成果の説明は簡略化しすぎるという意見もあり、位置づけが見直しの時期にきている。下野市では、分野別指標も重要視しているが、数を減らして絞り込み、一方で、具体的な施策についての優先度を明示することに主眼があると理解している。
- (石田委員) そうすると、分野別指標がメインではなく、施策の満足度の目標が重視されていると理解してよろしいか。
- (中村会長) 満足度は考慮に入れているが、直にそれが優先度に反映するというよりは、この満足度は一要素として議論しているようだ。満足度が低いからランクの左上に位置づけられるというのではなく、優先度設定の一部として考慮してあると理解している。それでよろしいか。
- (石田委員) 施策の数は、章ごとにばらつきがある。その理由は何か。
- (篠崎副市長) ご指摘いただいた量の多少については、策定委員会で検討したが、各担当課から提出された事務事業評価シートに沿って掲載しつつ、市民にとっての分かりやすさを考慮した結果である。従来のように、施策の数や

文章量のバランスを調整していない。

- (中村会長) 施策の数をそろえていないということである。3ページの優先度設定の考え方は、いろんな解釈ができる幅広いものとなっている。たとえば、事業の性質という横軸を「協働」の視点で見ると、行政が抱えこんできたサービスを、表の右のほうから市民とパートナーシップでやっていこうと読み取れる。したがって、右にきているものが軽視されているというわけではない。事業を取り巻く環境という縦軸も、単純ではなくて、たとえば熟度と緊急性は相反する場合もあると思う。事業環境が低いと判断されたものについても、民営化等の手法に変えることで推進するということもありうる。微妙なところではあるが、整理するための類型化ということと考えられる。
- (長委員) 16ページ、平成16年時点で商店数が575店舗、工業の事業所数が123社とあるが、数字の確認をお願いしたい。
- (齋藤部長) 県で出している統計に基づいて出しているが、調査方法の違いによって数字が違ってくる。確認するが、実態と異なることもある。
- (事務局：三菱総研) 一般的に、事業所・企業統計等の統計データは、実態より少ないという傾向がみられると指摘されている。
- (長委員) シティセールスの推進について、市内には3つの駅があるが、下野市をPRするというシティセールスの点からは、3つの駅に「下野」と冠を付けてはどうか。
- (篠崎副市長) この基本計画には、平成20年度から23年度までに実施する施策・事業が掲載されている。ただいま長委員からあったご意見は、この基本計画に位置づけるよりは、プロジェクトとして捉えたほうが適切であろうと考える。
- (伊澤剛委員) 3ページの表は、大小、高低と明確にする必要があるのか。市の実施責任ということを検討すると、分類4「市の将来の発展に向けて必要な投資的事業」が小とみえることには疑問がある。分類はいいとしても、大小、高低と明示しなければならないのか。
- (金子委員) 一般市民が見たときに、1Aは優先されるが、5Aは後回しになるのかと捉えられる。1Aになっているのは、ただ1つ防犯であった。1Bが防災、消防である。優先して実施されるというよりも、限られた予算の中で全体のバランスを考えて優先度を設定していると説明してはどうか。
- (篠崎副市長) 基本構想の素案のなかで、基本計画策定のイメージとして提示し、審議会で審議いただいた。大小、高低との記載については、分類の手法として割り切って捉えていただきたい。
- (石田委員) お金を付けてすぐに実施・解決しなければならない事業と、それほどお

金を付けないが検討を始めなければならない事業の 2 種類があると思うが、大小の意味が、解決しなければならない大小なのか、着手しなければならない大小なのか、どちらと考えているのか。つまり、4 年間で解決を目指すのか、4 年間で検討を開始して途中経過を提示することを目指すのか、どちらか。

- (篠崎副市長) 平成 20 年度から平成 23 年度まで、前期 4 年間に実施する施策・事業なので、実施と検討開始は縦軸の A から D のほうで見ていただければと思う。また、この基本計画に基づいた実施計画の策定において見直しをかけるので、平成 23 年度までこの評価が変わらないわけではない。
- (野田委員) 3 ページの表だが、やはり横軸の分類は、戦略的な事業である分類 4 「市の将来の発展に向けて必要な投資的事業」、分類 5 「市民の経済的・文化的・精神的豊かさをさらに伸ばす事業」が小となっていることはどうかと思う。事業の性質という表現だけにとどめて、「市の実施責任・義務的度合い」という表現を削除してはどうか。
- (中村会長) 前回の審議会で基本構想について検討いただいたが、大小、高低の記載については、基本構想の段階でメリハリを付けるということが決定されている。むしろ、分類の仕方について議論していただきたい。
- (伊澤敬委員) そのような経過であれば、「1A が最優先で、5D は一番後からしか実施できない」という誤解を招かないように、2 ページの「優先度設定」の中に表現を加えるほうがよいと思う。
- (篠崎副市長) 誤解を与えるということであれば、表現を検討する。
- (小川委員) 私も伊澤委員の意見に同じで、審議会の委員が誤解を招くと判断したなら、執行部である策定委員会でもう一度検討し、誤解を招かないような表現を考えていただいたらどうかと思う。
- (中村会長) 要するに、成績表でもランク付けでもなく、あくまでも整理したものと分かるような表現に変えていただきたいというのが、この審議会の意見である。大小のところについて、表現を再検討していただくということであるが、高低のほうはよろしいか。
- (中島委員) 行政の立場からは必要なものではあると理解したが、市民への説明には、優先順位は必要ないのではないかと考える。「優先度」という表現は、先にやる、後にやる、ということをお知らせるので気になった。
- (篠崎副市長) 策定委員会では、基本構想素案を受けて進めてきている。その点をご理解いただきたい。
- (石田委員) 新しい試みなので、これで完璧ではないと思う。今後の 4 年間でこの基本計画が進められるということ、委員のみなさんは懸念されていると思う。ただ、実際は、全て計画通りにいくわけではない。計画において

新しい試みをしたという審議の経過は残るのであるから、おかしいところがあれば、計画自体を見直して修正をかけるプロセスを作るべきであると思う。それを市民にも理解していただくことが必要である。計画の優先度設定についての枠組みは、この案をベースに審議を進めていきたい。財政が厳しいなどの前提条件があって、今まで通りに事業を実施していくのは難しいということを市民にも示すという視点があった。

(中村会長) 大小については、但し書きが必要ということになったが、優先度についてはいかがだろうか。メリハリをつけるといった但し書きは、必要だろうか。

(石田委員) 審議会の委員は、構想があって、計画があるという構造が分かっているのでいいが、この計画だけを見た人に誤解を与えるのではないかと思う。辞書を引いたときの意味とは若干違うためである。やはり説明を加えた方がよろしいと思う。

(大貫委員) 見直しについて明示すれば、4年間固定ということではないということが明確になると思う。

(伊澤剛委員) これまでの意見をうかがっていると、全部を見直すということはないと思う。説明する文章を加えていただいて、2ページの説明文の変更を検討していただくということでよいのではないか。

(中村会長) では、大小の意味とあわせて、優先度の意味について、2ページの説明文を追加・修正するというところでよろしいか。では、事務局にお願いする。

(大貫委員) ほかに、11ページの地域間交流のところ、香川県高松市との交流があるが、これは以前からのものか。

(諏訪部長) 香川県の高松市に合併したが、もとの国分寺町との交流が以前からあったものである。合併協議会での協議により交流が継続となったので、本年度も交流事業を実施している。

(金子委員) 39ページのごみ処理について、「市内処理体制の一本化を目指します」とあるが、2通りで実施すると聞いている。一本化は、難しいのではないか。

(諏訪部長) ごみ処理体制については、文章にある通り2通りで実施している。今後についても、宇都宮市・小山広域の2本立てで当分の間は進めると合併協議により決まっている。北部清掃センターの稼働期間の限界、小山の中央清掃センターの機器等の限界という現実がある。小山のほうでは、施設・処理体制の基本構想を策定中であり、下野市ではどうするかという課題をつきつけられている。したがって、現状の体制を維持しながら、将来の処理体制を検討している。庁内では、ごみ分別の一本化の可能性を検討するため、プロジェクトチームを結成しようとしている。また、斎場については、小山広域保健衛生組合の中で、組合負担金として一括

で支払っているため、斎場の経費は出てこない。したがって施策事業としては掲載されていない。

- (加藤委員) 基本計画には、市民と行政の協働のまちづくりという表現が度々出てくる。協働のまちづくりのための窓口・担当課をはっきりさせていただければと思う。市民力アップ講座を受けた市民で結成した団体では、行政と協働したいが、窓口がどこか分からないという意見が出ている。
- (石田委員) 各課にそれぞれの事業を出させる際に、複数の課にまたがるような事業は、どのように処理されたのか。
- (川俣部長) 例えば、第 5 章は市民生活部がリーダーとなっている専門部会だが、そのなかの第 3 節は上下水道について掲載している。関係部署が専門部会に参加し、検討・調整している。
- (大貫委員) 17 ページ、商工業の振興について、起業支援の観点が抜けている。
- (中島委員) 起業については、商工会の役割であると考えている。
- (金子委員) 道の駅整備の推進は、商業・工業も関連していいと思うが、17 ページには掲載されていない。
- (齋藤部長) 「道の駅」は複合的な機能を持つ場として計画している。情報発信の場として、シティセールスのなかで取り上げた。重複しないように、その他の章には掲載していない。

3) その他

- (事務局) 本日は活発なご議論をいただき、お礼申し上げます。本日の審議の結果、2 ページの優先度設定の考え方について、修正することになった。9 月は定例議会があるので多少時間を頂戴し、次回審議会は 9 月下旬を考えている。また、10 月には、パブリックコメントを予定している。
- (中村会長) 庁内検討の結果、画期的な基本計画が作成された。本日は、委員のみなさんからの射たご意見を多数いただき、ありがたく思う。では、会議を終了する。

以上